

# ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

## 千葉県経済の動き —中小企業動向を中心に—

### 概況

県内経済は、全体としては引き続き緩やかに回復している。

千葉経済センタ―の「千葉県企業経営動向調査」(07年6月実施)によると、4～6月期の業況判断BSI(全産業)は▲二・八と「悪化」超ながら、二期ぶりに改善(前期比+〇・八)した。もっとも、同収益BSIは前回比悪化し、水準も六期連続で「悪化」超となった。

県内小売業の販売動向は、空梅雨によるプラス効果やつくばエクスペレス(TX)沿線に新規出店した大型ショッピングセンター(SC)など一部では売り上げが好調であったが、総じて盛り上がり欠ける状況が続いた。百貨店は4四半期ぶりに前年を上回ったが、これは県内七か店全店でいっせいに夏物クリアランスセールを前倒しで実施したため、販売環境は依然厳しいとの受け止め方。スーパー、コンビニ売上は、好天に恵まれ、コールドデザートや飲料等が伸びたが、ホームセンター、家具などは弱含みの動きとなった。また、自動車販売では主力の普通乗用車に加えて軽自動車も前年を下回り、5四半期連続で前年実績を割り込んだ。

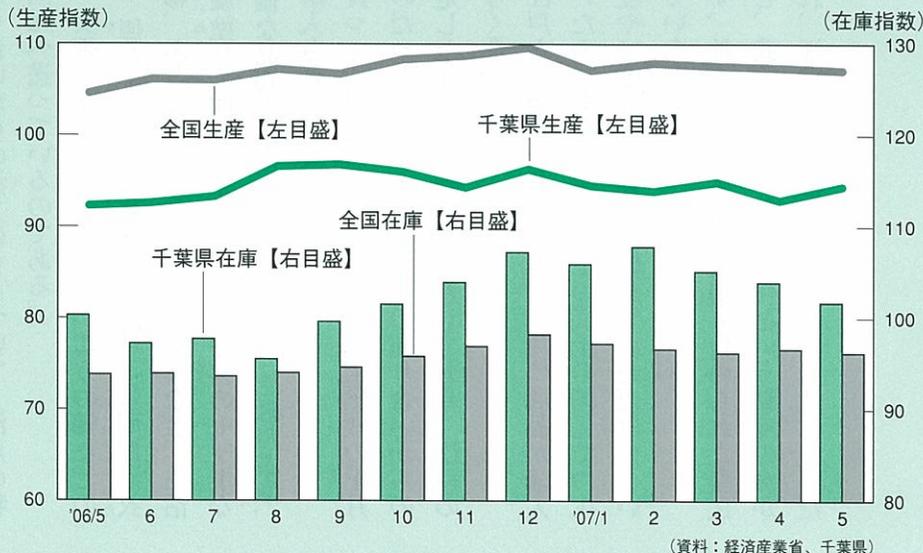
ここ三か月間(3～5月)の県内新設住宅着工戸数は、前年同期比▲十六・九%減少した。これは、04年以降前年比二ケタの伸びを続けてきた分譲マンションが、前年同期比▲四三・四%と大幅に落ち込んだため、こへきて一時の勢いにかげりが見られる。一方、4～6月期の公共工事請負金額は、成田空港関連等の大型工事が寄与して、3四半期連続で前年同期を上回った。

千葉県鉱工業生産指数は、化学工業は堅調だったが、金属製品や輸送機械工業の落ち込みが響き、減少した(2月九三・九↓3月九四・九↓4月九二・九)。

07年度設備投資計画額(07年6月調査)は、製造業の伸びを中心に全産業で06年度実績比+三・三%増加した。製造業中小企業では期初計画比+十四・六%と二ケタの上方修正となった(千葉県企業経営動向調査)。

千葉県の有効求人倍率(季調値)は二か月連続で改善した(3月〇・九一倍↓4月〇・九二倍↓5月〇・九八倍)。5月は飲食店・宿泊業を中心に新規求人数が大幅に伸びるなど、雇用の不足感が高まった。(嘉藤)

■鉱工業生産・在庫指数 (季節調整済、2000年=100)



## 消費関連

県内小売業の販売動向は、空梅雨の影響で一部で上向きの動きが見られたものの、全体としては盛り上がり欠ける状況が続いた。

すなわち、県内百貨店の07年4～6月期の売り上げは、県内七カ店全店がいつせいに夏物クリアランスセールを前倒しで実施した効果もあつて四期ぶりに前年実績を上回った。スーパーの販売額も、食料品の好調などから底堅い動きを続けた。コンビニ売上は、好天による行楽需要の高まりから上向

きの動きが見られた。TX沿線に新しくオープンした大型SCも順調な滑り出しだった。

一方、自動車販売は、普通乗用車の売上減少に加えて、軽自動車が一〇期ぶりに前年割れとなり、全体でも五期連続で前年実績を下回った。ホームセンターは、前年実績を確保できなかった。外食産業では飲酒運転の厳罰化の強まりによる宴会客数の落ち込み、家具販売も競合激化などからそれぞれ弱含みの動きが続いた。旅行販売は、欧州や米国など遠方の不調が響いて前年実績に届かなかった。

(関)

## 食料品

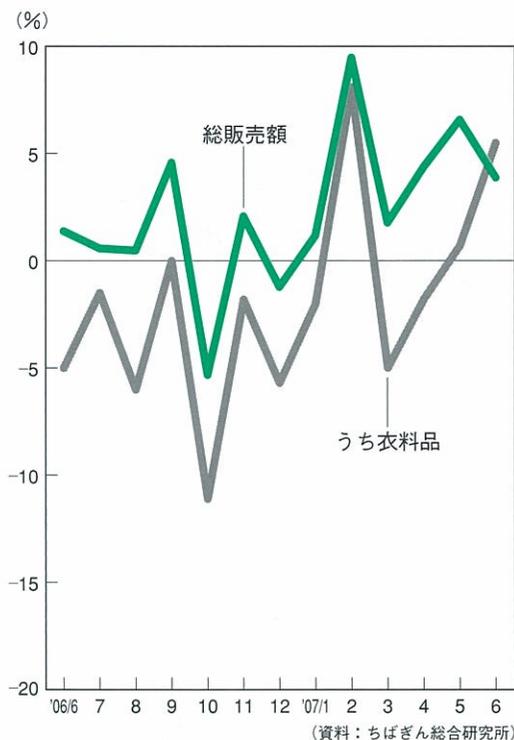
県内食料品メーカーの4～6月期の生産BSIは、三・一と6四半期ぶりに「増加」超となった(1～3月期▲十一・六)。収益BSIも前回比大幅に改善した(収益BSI：同▲二二・四↓同▲五・九)。

穀物価格の上昇や原油高、大きな円安進行を背景として、幅広い品目で仕入価格の高騰が続いている。販売価格への転嫁は、大手の市場占有率が高い食用油や小麦粉メーカーなどから徐々に進み、収

益改善につながった。菜種油のメーカーでは、07年1月ごろから業界大手と足並みをそろえて値上げを行ってきたが、競合品の大豆油・パーム油の市況も上がったことで、販売先に乗り換えられることなく価格転嫁できたとのこと。

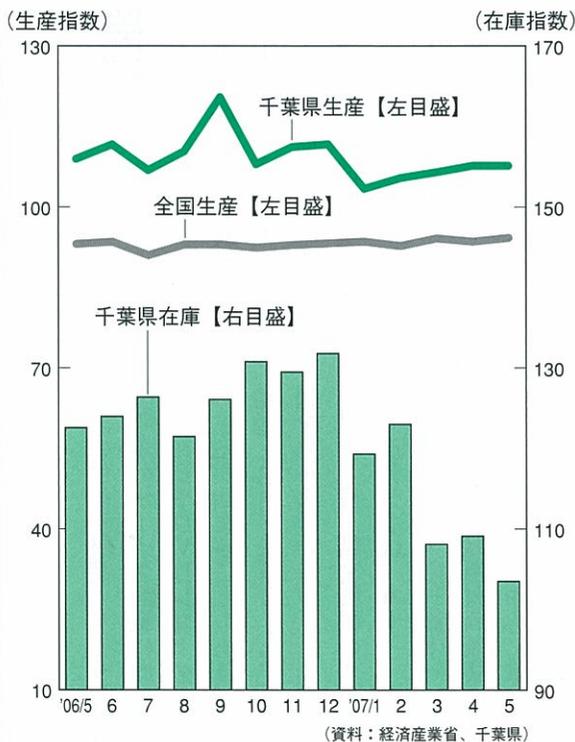
一方、川下に近いメーカーでは、客離れを恐れて値上げには慎重な先が多い。とりわけ原材料の品目が多い加工食品では、値上げの際に消費者の納得を得る説明をすることが難しい、という声も聞かれた。前年比一割程度の原材料費値上がり分を、経費削減努力等で吸収した先もあった。(嘉藤)

■千葉県百貨店販売額伸び率 (対前年同月比)



■食料品の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)

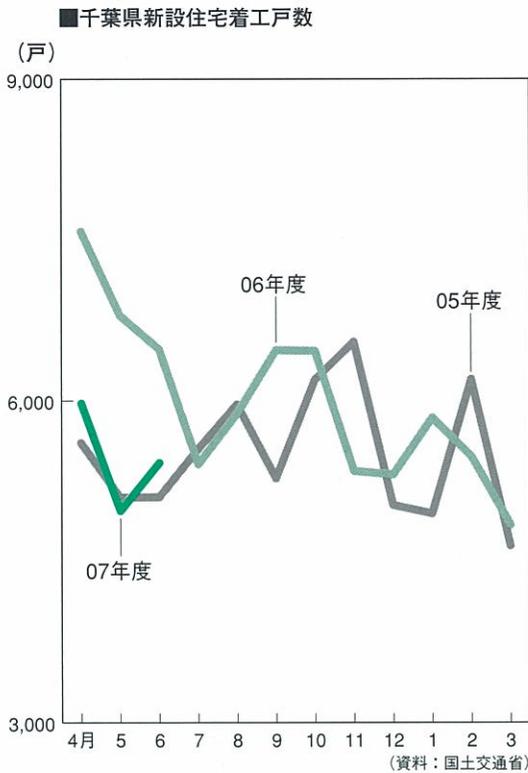


## 住宅・建設

県内の新設住宅着工戸数（3～5月）は前年同期比▲十六・九％減少。内訳を見ると、持家（注文住宅）が同▲二・九％、分譲戸建が同▲二・六％、貸家が同▲二・一％と、いずれも微減にとどまったが、分譲マンションが同▲四三・四％減少と大幅に落ち込んだ。都内では地価の先高感からマンションの着工をあえて遅らせる動きもあるが、県内では供給過剰からすでに売れ残る物件も見られ、今後千葉県内でのマンション

開発は行わないとする業者も出ている。

4～6月期の県内公共工事請負金額は、成田空港関連や館山自動車道の工事、豊四季団地の建替えなどの大型案件が寄与して、前年同期比+三九・八％増加と3四半期連続で前年を上回った。しかし、これらの大型公共工事に入札するにはある一定の売上規模が必要なため、地元の建設業者は入札したくてもできないのが現状で、大手ゼネコンが落札している。そのため、県内建設業者からは、公共工事が増えていても、地元企業はほとんど恩恵を受けていないとの声が聞かれた。（酒井）

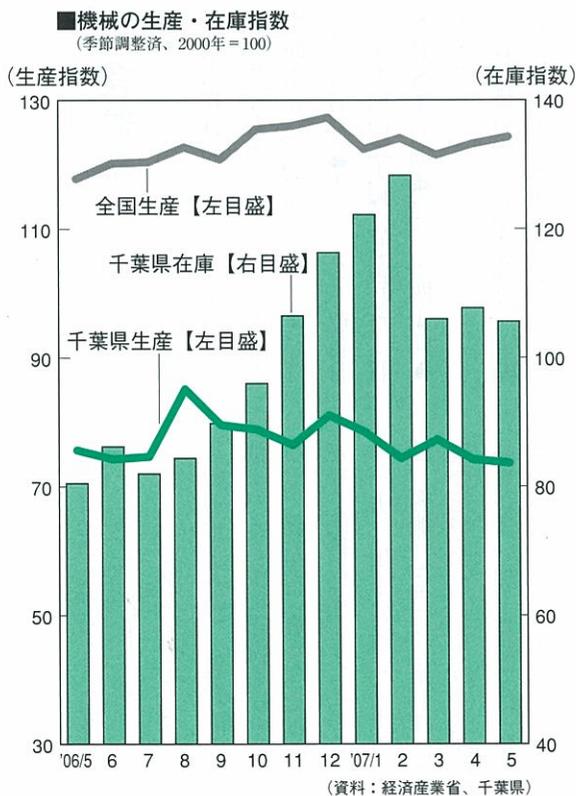


## 機械

県内電気機械の4～6月期の生産BSIは▲五・六（1～3月期・〇・〇）と前期比五・六悪化した。在庫BSIは3四半期連続で〇・〇。過剰感はないものの、新年度入り後も大手電機メーカーなどからの発注は増えず、4月以降の繁忙を見込んでいた県内企業は期待外れの結果に終わった。生産動向を品目別に見ると、国内では個人用のマルチプリンターは好調だが、パソコン関連の伸びが今ひとつ。海外では中国向けの携帯

電話の生産が堅調。7～9月期は07年冬のボーナス商戦に向けた薄型テレビやDVDレコーダーなどの生産が始まることもあり、生産見通しBSIも五・六と「増加」超を見込んでいる。

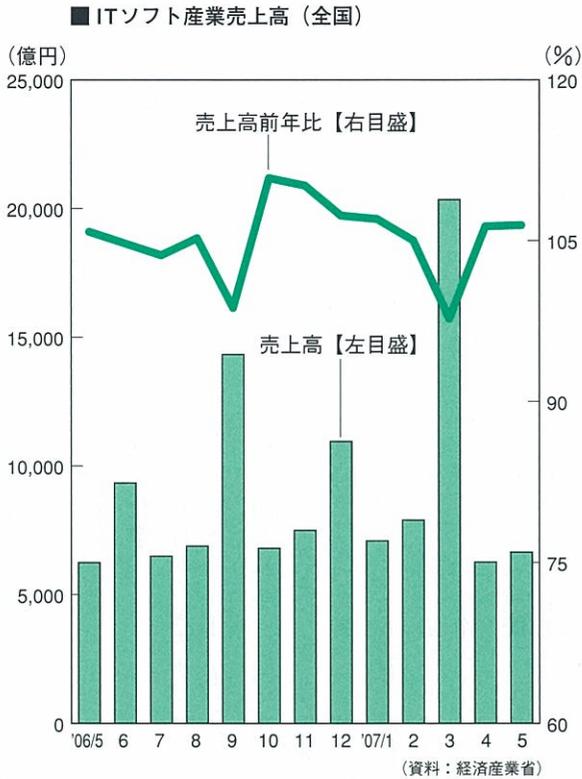
県内一般・精密機械の4～6月期生産BSIは、▲十一・六と1～3月期（〇・〇）比十一・六悪化した。収益は原材料価格の上昇などで中小企業を中心に厳しい状況が続き、収益BSIは▲十四・三と6四半期連続で「悪化」超となった。7～9月期の生産見通しBSIは十一・六と、5四半期ぶりに「増加」超の見込み。（酒井）



## ITソフト

情報サービス業(全国)の4～5月の売上高は、前年同月を上回って推移した(4月+6・4%↓5月+6・5%)。主力の受注ソフトウェアでは、金融業向け、製造業向けなどが増加し、ソフトウェアプロダクトの中では海外向けゲームソフトが好調だった。

県内のIT関連業者四五社で構成する協同組合の経営動向調査でも、売り上げ・受注は上昇傾向だった。一方、取引価格は、値下げ要求が減った程度で横ばい推移と

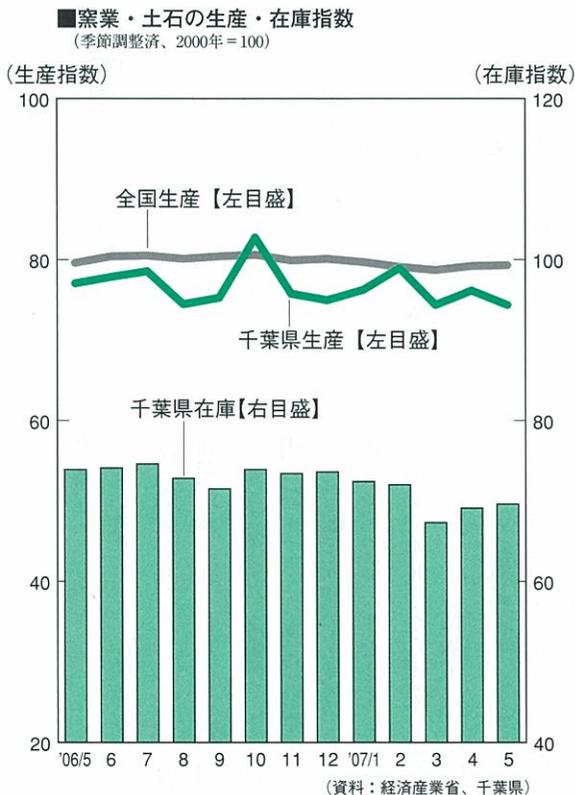


いう声が過半を占めた。また、プログラミング言語の変化も早い。労働生産性を高めることは難しいとのこと。競合他社が多いプログラムニング業務やシステム受注だけでは利益率が低く、成長も見込めないため、独自商品の開発に人材を投入する先が見られた。この開発の成否は、受注が取れず早期撤退した先と、今後の収益源として期待できる先に二分された模様。技術力のある一部企業では、大企業の取引先が増えたことで、一社から複数の契約が取れるようになり、営業効率も上がったという明るい話も聞かれた。(嘉藤)

## 窯業・土石

県内の生コンクリート主要協同組合(北部・西部・中央・東部)の4～6月期の出荷量は、前年同期比▲九・二%減少と、三年ぶりに前年同期を下回った。これは前年高水準の反動で、07年度の年間予想出荷量は、マンシヨンなどの民需を背景に高水準が続くとの見方が多い。各組合では山砂やセメントなど原材料価格の上昇に伴い、4月から生コン出荷価格を五%前後引き上げた。

千葉中央協同組合(千葉・市



原・袖ヶ浦)の4～6月期の出荷量は、前年同期比+二五・九%増加。公共工事や、JR千葉みなと駅周辺のマンシヨン用出荷が好調。千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋など)の4～6月期の出荷量は、同▲十八・四%減少。建設現場での工期遅れから前年を下回ったが、年間を通しての需要は堅調に推移すると見ている。千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)の4～6月期の出荷量は、前年高水準の反動で同▲二〇・三%減少したが、当初計画比では+二・九%増と引き続き高い水準で推移しているとの見方。(酒井)

# 鉄鋼 石油・化学

## 鉄鋼

4～6月期の県内高炉メーカー二社の粗鋼生産量は、世界規模の鋼材需要増を映じて、既往最高水準となった。

一方、県内の中小鉄鋼メーカーの生産は減少傾向が続いている。国内の鋼材需要は、自動車、建機向けなどが伸びているが、これは高炉・大手メーカー間の直接取引であり、中小鉄鋼メーカーが取り扱う中小規模の建設案件や設備投資は伸び悩んでいる。中小鉄鋼メーカーからは、「今は不況だ」と

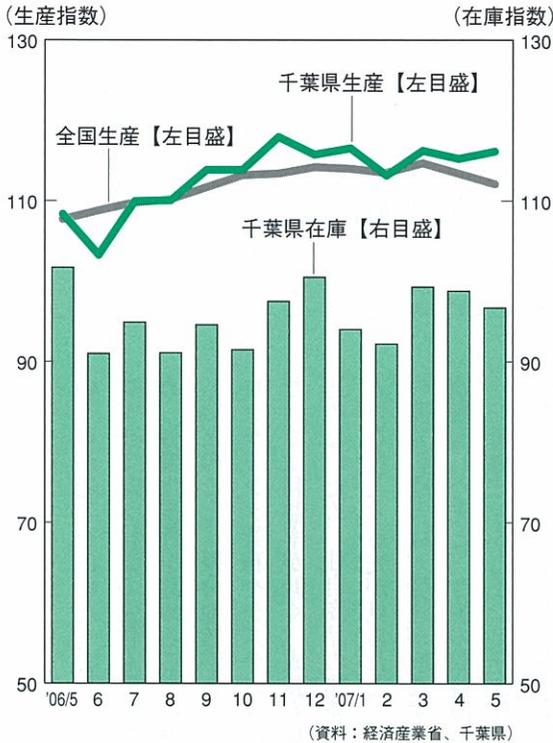
いう声が聞かれた。  
石油・化学

4～6月期の国内ナフサ価格は、五万八〇〇〇円/kgと1～3月期（四万八八〇〇円）比＋十八・九％上昇した。アジア地域では韓国や台湾でエチレン工場が新たに稼働したこともあり、原料となるナフサ需要は強く、7～9月期の国内ナフサ価格は六万四〇〇〇円程度にまで高騰するとの見通し。ナフサ高を受けて、県内の汎用樹脂メーカーでも販売価格の値上げを行っているが、足元ではさらに原料価格が上昇していることから、7月以降の再値上げ要請は避けられないとしている。（酒井）

（関）

## 鉄鋼業の生産・在庫指数

（季節調整済、2000年=100）



# 農業・漁業

## 農業

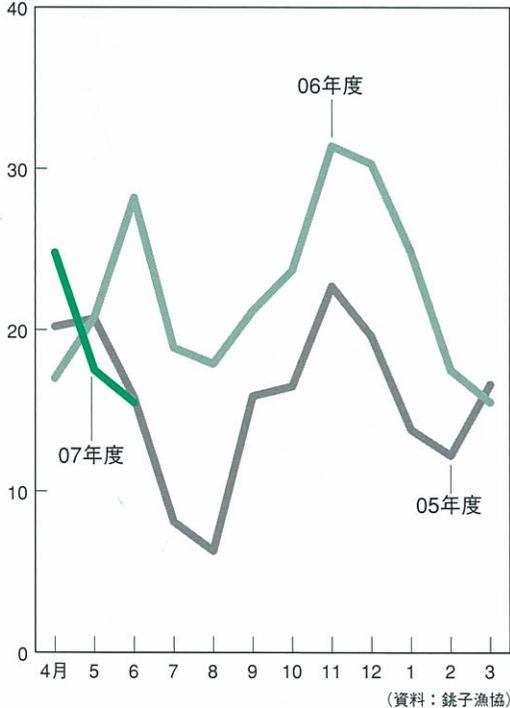
4～5月の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が四万三三二二t（前年同期比＋五・〇％）、平均単価が一・二二・五円/kg（同▲六・五％）となり、出荷金額は五二・六億円と同▲二・〇％減少した。06年同期は冬の寒波で生産量が減少した分、単価が高騰した品目が目だったが、07年入り後は取扱量、価格ともに安定推移している品目が多く、一〇品目総体では前年並みの水準となった。（福田）

## 漁業

銚子漁港の4～6月期の水揚げは、数量が五万八二二〇t（前年同期比▲十五・七％）と前年割れとなったものの、金額（六七・四億円・同＋二・一％）は前年を上回った。06年同期の主役魚であったサバが、07年入り後は3月から6月末まで水産庁から操業自粛を強いられまったく水揚げができなかったことが数量の減少を招いた。勝浦漁港の4～6月期の水揚げは、数量が二万六二二t（同＋四六・二％）と前年を上回ったものの、金額は六一・九億円（同▲十三・〇％）と前年を下回った。（福田）

## 銚子漁港の水揚げ額

（億円）



## 雇用

千葉県の5月の有効求人倍率

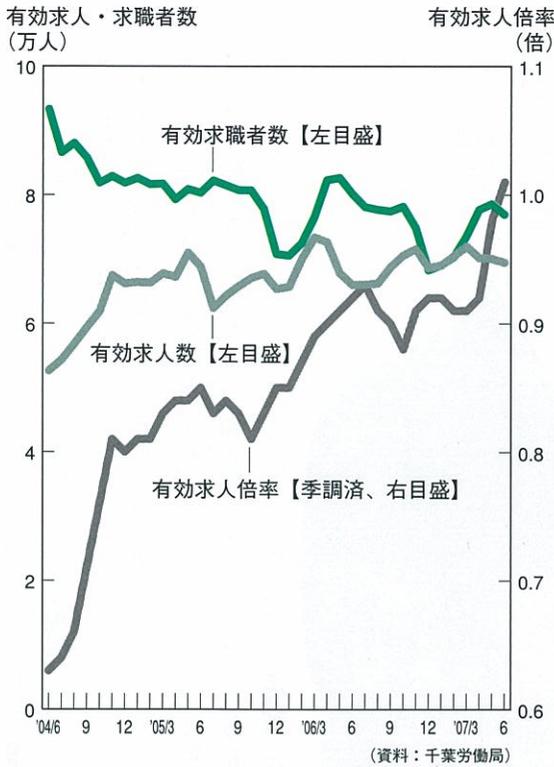
(季調済)は、前月比+0.06ポイント改善し0.98倍となった(07年1~3月期:0.91倍→4月:0.92倍→5月:0.98倍)。雇用形態別に見ると、一般、パートともに改善した。

5月の有効求人倍率を押し上げたのは、新規求人数の増加である。業種別に見ると、飲食店・宿泊業の新規求人数(季調済)が4月に引き続き前月比二ケタ伸び、牽引役となった(前月比:4月+

三五・一%↓5月+三一・七%)。

5月には、パート約二四〇人分の求人票を持ち込んだ和食チェーン店(木更津市)が求人数を底上げしたが、総じて飲食店や宿泊業の人材不足感は強い。県内企業の間では、新卒採用だけでは離職者数が採用者数を上回ってしまうため、中途採用を年間通して行う動きも見られた。また大型SCが進出した地域では、出店テナントや地元企業間でパートを奪い合う状況となっており、時給を引き上げたり、パートを社員に登用する企業も出てきた。(嘉藤)

■千葉県内労働需給状況

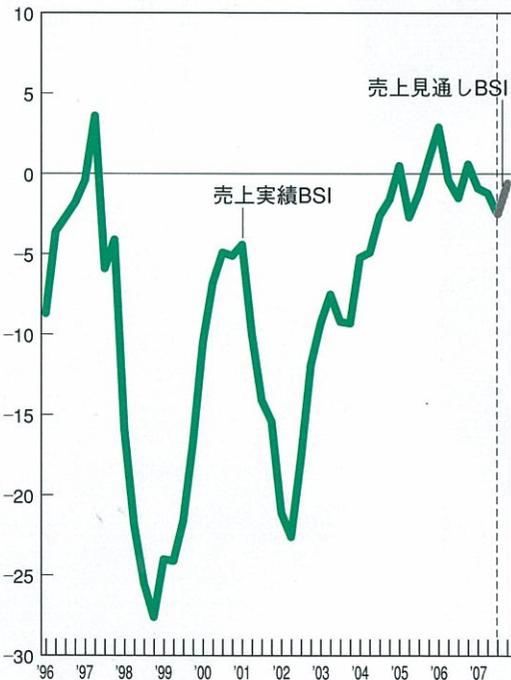


## 企業経営 動向調査(BSI)

07年4~6月期の県内企業の業況判断BSI(全産業、以下同じ)は▲二・八と、「悪化」超ながら二期ぶりに改善した(前回比+0.8)。先行き(7~9月期)の業況判断BSIは○・九と実績比+三・七改善見込み。

売上BSIは▲二・五(前回比▲一・三)と三期連続で悪化した。収益BSIは▲六・五と前回比▲二・五悪化し、六期連続で「悪化」超となった。販売価格BSIは一・三(前回比+一・五)と二期ぶ

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



注) 売上実績BSI=(「増加」-「減少」)÷2

りに改善し、「上昇」超となった。製造業、非製造業ともに「上昇」超となったのは、91年7~9月期以来十五年九か月ぶり。一方、仕入価格BSIは二三・八(前回比+七・二)と悪化し、06年7~9月期に仕入価格BSIの統計を開始して以来最高の水準となった。07年度設備投資計画額(同)は、06年度実績額比+三・三%となった。期初計画比でも+一・九%の上方修正となった。製造業中小企業では期初計画比+一九・七%と大幅な上方修正となった。雇用BSIは十二期連続で「不足」超となった。(関)